

第36回 Kyoto演劇フェスティバル

2015年2月7日(土)⇒15日(日)

充実した内容を誇る”京都の冬”恒例の演劇祭！



河原町通が演フェスに向けての祝祭一色に染まります。

Kyoto演劇フェスティバル(演フェス)は、京都府内の劇団・人形劇団が一堂に集う唯一の機会として、また、府民の皆様が演劇文化に触れる機会を提供する事を目的とした地域密着型の演劇祭として昭和54年より休むことなく開催し続けており、「演劇一色に染まる2月の文化芸術会館」と評され、今回で36回目を迎えました。

また、全国に先がけて府民参加型の合同創作劇や朗読劇、短編連続上演などの非常に多彩な特別プログラムを行うなど、「子どもから大人まで楽しめるフェスティバル」として地域に定着し、公立ホールが企画・運営を行う演劇祭として全国有数の開催回数を誇りつつ注目を集めています。

なお、前回より「子どもから大人までが楽しめる1日」を目指した特別企画として〈演劇クロス世代〉と銘打ち、世代の垣根を越えた「出会いと交流」の1日を設けるほか、地域を拠点に活動続ける劇団などの展示コーナーを設けるなど、京都を中心により広い地域での演劇文化の普及・発展を目的に開催いたしました。

様々なキャラクターが観客のお出迎えをします。



地域の活動が分かる様々な劇団の展示コーナー



第36回Kyoto演劇フェスティバル開催スケジュール

2月7日(土) 児童 青少年 部門	2月8日(日)	2月11日(水・祝) 一般 部門	2月14日(土)	2月15日(日) 特別 企画
グループ空清 《京都市》	春楡一座 《京都市》	やわた人形劇 連絡会 《八幡市》	ごちゃまぜ MINIシアターズ 《京都市》	有 座 《京都市》
ミュージカル劇団 ケセラ・セラ 《京都市》	京都放送劇団 《京都市》	山科麗園こどものひろば演劇部 ぼっぶ・こーん 《京都市》	みかんの木文庫 《福知山市》	立命館高等学校 演劇部 《長岡京市》
劇団「京すずめ」 《京都市》	劇団 青空 《京都市》	ミニシアターまる 《長岡京市》	修学院中学校 演劇部 《京都市》	児童劇団 やまびこ座 《京都市》
市民劇団O ² 劇場 《大津市》	京都西陣 創造集団アノニム 《京都市》	まゆともGTS 《京都市》	宇治っ子 朗読劇団☆Genji 《宇治市》	立命館中学校 演劇部 《長岡京市》
		ちゃんばらCLUB 喜怒哀楽 《京都市》	きつず☆Kocho 《豊中市》	ルサンチカ 《京都市》

公募公演：一般部門 [2月7日(土)・8日(日)]

公募公演プログラムは、京都府内で継続的に活動を続ける劇団を中心に、参加対象を関西全域の劇団や学生劇団まで広げた、Kyoto演劇フェスティバルの屋台骨を支える中心プログラムです。

「一般部門」は一般成人の鑑賞を対象とした演劇作品の上演を行うプログラムです。

今回は、11団体からの申込があり、申込内容(企画書)だけでなく、プログラム全体のバランスや活動内容などを考慮した結果、8団体(和室2団体／ホール6団体)で一般部門は開幕いたしました。

その内容につきましては、ストレートプレイやミュージカル、朗読劇や放送劇

など、非常にバラエティ豊かなプログラムで開催されました。

また、各出演者につきましても、20代の社会人から60代・70代の社会人OBまでの、非常に幅広い年代・職種のアマチュア演劇人が集うなど、演劇などの創造活動が持つ「生涯学習・生涯活動」としての一面を垣間見る機会にもなりました。

なお、前回より新設されました『観客賞』につきましては、今回より「2公演以上の作品を鑑賞された方のみ投票権を有する。」という方法に変更となった事により、従来であればお目当ての劇団公演のみ鑑賞しておられた観客が、その前後の公演も積極的に鑑賞されたほか、各公演終了後に実施されました「幕間トーク」なども効果的に行われるなど、

らの参加がありました。

また、参加団体につきましては、地域で様々な活動を行っている児童劇団を中心に、ユニット形式による大規模な人形劇から一人で行う人形劇、そして幅広い世代(70代から小学生)で活動を行っている劇団や中学校の演劇部(公募公演としては初参加)など、非常に幅広い年齢層による参加で、これも一般部門と同じく演劇活動が持つ「生涯学習・生涯活動」としての一面を垣間見る機会にもなりました。

内容についても、完全オリジナルから作品から名作まで、それぞれが非常にバラエティに富んだ作品で、「丸ごと1日楽しめる演劇祭」として、2日間とも客席は大盛況となりました。

一般部門 参加団体



グループ空清



春楡一座



ミュージカル劇団ケセラ・セラ



京都放送劇団



劇団「京すずめ」



劇団 青空



市民劇団O2劇場



京都西陣創造集団アノニム

客席は常に大盛況で、演フェスが掲げる劇団と観客との「出会いと交流」に向けて大きな成果があったと思われます。

公募公演 児童青少年部門 [2月11日(祝)・14日(土)]

「児童青少年部門」は児童青少年から高校生までを鑑賞の対象とした作品ならびに児童青少年の出演を対象とした演劇・人形劇等の作品の上演を行うプログラムです。

今回は、12団体からの申込があり、一般部門と同様に、申込内容やプログラム全体のバランス・活動内容などを考慮した結果、10団体(和室1団体／ホール9団体)で児童青少年部門は開幕いたしました。

今回は京都市内からの参加以外に、京都府下につきましては福知山市、府外につきましては大阪府(豊中市)か

児童青少年部門 参加団体



やわた人形劇連絡会



ごちゃまぜMINIシアターズ



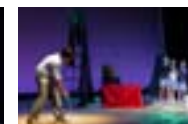
ぼっふ・こーん



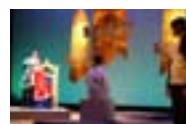
みかんの木文庫



ミニシアターまる



修学院中学校 演劇部



まゆともGTS



宇治っ子朗読劇団☆Genji



ちゃんばらCLUB喜怒哀楽



きつずkocho

特別企画「演劇クロス世代」

【2月15日(日)】

「少年少女から青年・大人・熟年(?) までまじわって(クロス!)つながって 今日 は1日“だんらん劇場”!」というキャッチコピーのとおり、幅広い年代の観客層に楽しんでいただけるよう、中高演劇部の優秀作品や学生演劇の推薦作品、さらに公募公演からの選りすぐり作品が集結し、演フェスの最終日を盛り上げました。

その内容につきましては、平和を題材にした朗読劇にはじまり、中学・高校生による完全オリジナルの創作舞台、児童劇団による戦争悲話など、多彩な内容で上演され、企画意図のとおり、幅広い年代の来場者により賑わいのある1日となりました。

アフタートーク・交流会など

劇団と観客や劇団間同士の交流をより深め、今後の活動をより充実させていくために表題の企画を実施いたしましたが、そのいずれも非常に好評を博し、様々な意見や感想が飛び交うなど充実しておりました。

その他の企画

今回の演フェスより関連プログラムの実施を図るため、2つの企画をプレ・イベントとして実施いたしました。

まず最初は、演フェスのメイン会場となるホールを使って、絵本を題材に参加者全員で舞台作品をつくりあげる内容の〈合同ワークショップ〉を行いました(参加者:

また、特別企画終了後に実施されたグランドフィナーレにつきましては、公募公演の全参加劇団が舞台に集合し、第36回の演フェスを締めくくると共に、第2回観客賞の発表・表彰が行われました(市民劇団O²劇場が受賞※大津市より初参加)。

第40回を見据えて募集要項などを見直すと共に、関連プログラムを充実させ、「出会いと交流」をより積極的に企画化していきました第36回の演フェスは、前回以上の盛り上がりを見せ、次回第37回への期待と共に無事に全ての公演プログラムを終了いたしました。



グランドフィナーレでは演フェス参加全団体が舞台上に集い、観客賞の表彰など、第36回の演フェスを締めくくりました。



公演終了直後の感想や質問など(一般部門幕間トーク)



その日の舞台をみんなで見つめてレビュー(児童青少年部門アフタートーク)

特別企画 参加団体



有 座



立命館高等学校 演劇部



児童劇団やまびこ座



立命館中学校 演劇部



ルサンチカ



和室公演終了後(一般部門アフタートーク)



公演終了後のホットな感想を(一般部門交流会)

30名/8団体。講師:ごまのはえ)。

次に指導者派遣事業(舞台創造アシスト事業)を行いました。この事業は、演技・演出から、その他芝居づくりの様々なところでお悩みの演フェス申込団体に、プロの演劇人・演劇有識者が稽古場まで出向いてご相談を承るスタッフ派遣事業で、演フェス参加の7団体からの依頼があり講師派遣を行い、そのいずれも好評でした。

(アンケートより抜粋)

合同WS:この舞台はかなり細かい事まで観客に伝わるので“気を抜けない”と本番に向けて改めて強く感じました。/等

舞台創造アシスト事業:非常に具体的にアドバイスしていただき、芝居が変わっていくのが実感できました。子どものやる気をさらに出して頑張ろうという気にさせてくれました。

第36回Kyoto演劇フェスティバル 開催結果

〈開催期間〉2015年2月7日(土)～15日(日)

〈会場〉京都府立文化芸術会館 ホール・3階和室

〈参加団体数・人数〉24団体・354名

〈運営サポートスタッフ数〉95名(延べ人数)

〈入場者数〉公募公演:一般部門部門 4,350名(幕間トーク等含む)

公募公演:児童青少年部門 3,765名(アフタートーク等含む)

特別企画〈演劇クロス世代〉2,545名(幕間トーク等含む)

合計 10,660名

〈実行委員〉

委員長 棕平 淳(大阪工業大学教授/京都府立文化芸術会館シアターアドバイザー)

委員 岡田尚丈(創造集団アノニム)

河瀬 仁誌(劇団ZTON)

木原アルミ(パーカーズ)

ごまのはえ(ニットキャップシアター)

沢 大洋(京都学生演劇祭プロデューサー)

高杉征司(NPO法人 京都舞台芸術協会)

田辺 剛(下鴨車窓)

中田達幸(俳優・演出家)

小林洋介(人形劇団京芸)

中村さとし(京都児童青少年演劇協会)

森井有子()

中村昌剛(京都人形劇センター)

小谷 常()

山本範子(京都府 文化環境部 文化芸術振興課 課長)

下田 元美(京都府立文化芸術会館 館長)

〈ホールスタッフ〉

吉村 昭治(指定管理者 創/舞台担当)

谷澤 庸行(/照明担当)

鈴木 英嗣(/音響担当)

上田 晶人(/事務局担当)

北村 方人(/照明担当)

〈運営〉京都府立文化芸術会館

〈主催〉京都府、指定管理者 創[(財)京都文化財団・(株)コングレ共同事業体]

・Kyoto演劇フェスティバル実行委員会

〈後援〉京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都新聞社、朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、

読売新聞京都総局、産経新聞社京都総局、日本経済新聞社京都支社、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

〈協力〉京都児童青少年演劇協会、京都人形劇センター、NPO法人劇研、京都府高等学校演劇連盟、

京都市中学校教育研究会演劇部会、京都労演